

【プロフィール】 (2018. 3. 23)



作・演出：藤田貴大 (Takahiro FUJITA)

マームとジプシー主宰／演劇作家。1985 年生まれ。北海道伊達市で出身。桜美林大学にて演劇を専攻。2007 年にマームとジプシーを旗揚げ。以降、全作品の作・演出を担当。象徴するシーンの繰り返しを、別の角度から見せる映画的手法で注目を受け、演劇の反復における観客や俳優への作用を探究。音楽用語である”リフレイン”の概念を演劇に取り入れ、オリジナルの演劇手法を確立。11 年 6 月-8 月にかけて発表した三連作『かえりの合図、まっけた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第 56 回岸田國士戯曲賞を 26 歳で受賞。以降、様々な分野の作家との共作を積極的に行うと同時に、演劇経験を問わず様々な年代との創作にも意欲的に取り組む。14 年『てんとてんを、むすぶせん。からなる、立体。そのなかに、つまっている、いくつもの。ことなつた、世界。および、ひかりについて。』で初の海外公演を成功させる。16 年に第二次世界大戦末期の沖縄戦に動員された少女達に着想を得て創作された『cocoon』で第 23 回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。また、古典作品の演出も行い、16 年に発表した『ロミオとジュリエット』では時間軸を遡って進行させる手法と複雑な装置の転換、主要な登場人物を全て女性に演じさせるコンセプトに注目が集まった。